

(4) 安全なツル類の捕獲方法

ツル類の捕獲は、個体識別による行動や利用環境の解明、寄生虫や病気の調査などの必要性から、長期的ツル類保護対策調査研究事業でも当初からの文献調査や検討会を開いての検討が行われてきた。その中で実行性の高い方法として、以下の2つの方法が挙げられている。

・ロケットネットによる捕獲

長所：実際に出水でのツル類の捕獲に使用された実績を持ち、かつツル類の事故などもなく確立された手法である。

短所：ネットの射出に火薬を使用するため有資格者の従事が必要である。また、ネットがカバーできる範囲にツルが集まるまで人員の待機が必要である。

・設置式の罟

出水地方で利用されているビニールハウスを模した罟で、餌などによりツルを内部に誘導し、罟の上部からネットを落下させる罟で、鹿児島県教育委員会で改良を重ね、平成19年にはナベヅル1家族の捕獲に至っている。

長所：捕獲に特別な資格がいらず、設置も用意。

短所：罟への馴化に時間を要する。

ただし、馴化の期間は、無人でおいておくことが可能で、複数での運用も可能と考えられる。なお、餌での誘引によるこの捕獲方法は、何らかの原因で十分に餌をとることのできない個体を選択的に捕獲する可能性があることに留意する必要がある。



図4 ビニールハウス式ツル捕獲罟外観（鹿児島県教育委員会 2008）